税金の向こう側

京都府立洛北高等学校附属中学校3年A組
丸山（まるやま） 千知（ちさと）

No. 1

最近、物価高の影響で、テレビやインターネットでは「消費税を下げるべきだ。」という話題をよく見かける。しかし、僕が物価高を一番身近に感じるのは、ニュースではなく家の中である。母と祖母は台所でよく「レシートを見ると一年前より一割くらい高くなった気がするね。」と話している。少しでも私たちにたくさんおかずを作るため、安いスーパーを分担して何軒も回って買い物をしている。その姿を見ていると、物価が上がることはニュースの中だけの話ではなく、自分の家にも関係する問題なのだと感じた。だから、私は、最初は「税金が下がれば家計も少し楽になるしいいことなんじゃないか。」と思っていた。しかし、学校で税金について学んでから、その考えは少し変わった。税金は、医療や年金などの社会保障だけでなく、学校、消防、警察、道路、ごみの回収など、私たちの暮らしを支えている。私はそれまで税金は「払うもの」というイメージしかなかった。しかし、当たり前だと思っていた毎日の生活が税金によって支えられていることを知り、「税金は社会みんなで支え合うためのお金」と考えるようになった。そこで私は、一つ疑問に思った。消費税が下がるということは、単純に考えれば集まる税金が減るということだ。もちろん、物価が高くなっている今、多くの家庭にとって消費税が下がることは助けになると思う。私の家でもお母さんや祖母は毎日のように食費を工夫しているので、その気持ちはよく分かる。でもその減った税金はどうするのだろうか。ニュースでは足りないと知ったが、それに頼り続ければ、将来返さなければならないお金が増えてしまう。私は、将来の世代のことまで考えて判断できる人になりたい。そのためにも、これからも税や社会の仕組みに関心をもち、自分なりに考えを深めていきたい。

No. 2

No. 3